



FujiPharma

富士製薬工業株式会社
証券コード：4554

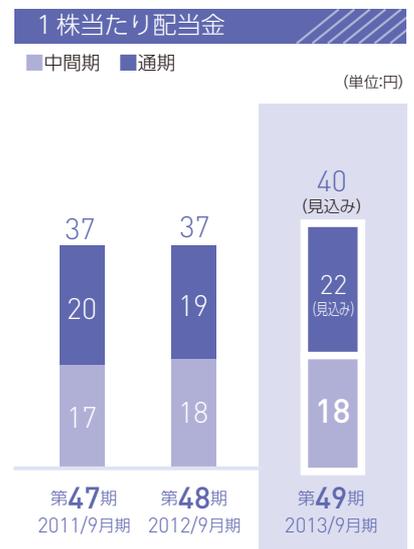
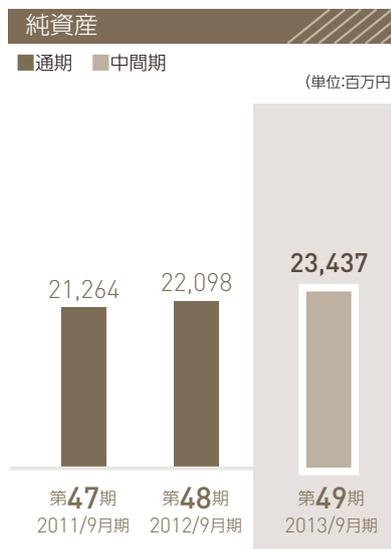
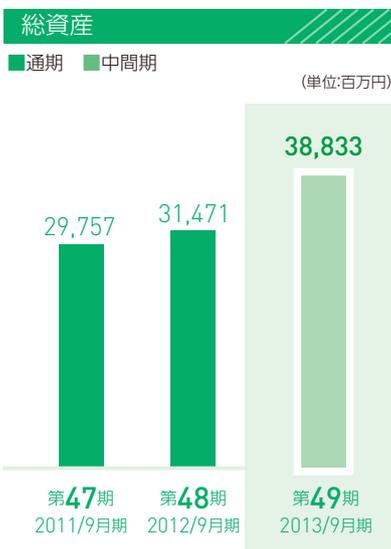
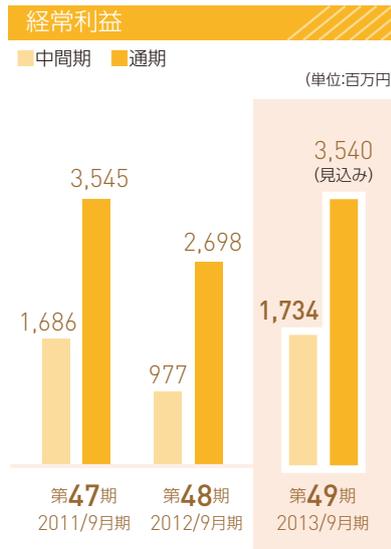
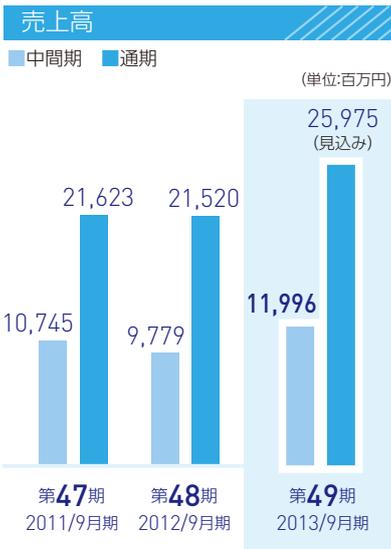
Fuji Pharma IR Report

第**49**期 第2四半期報告書

2012年10月1日から2013年3月31日まで

株主・投資家の
皆様へ

急性期医療領域では主力の造影剤が順調に推移、
女性医療領域ではルナベル®配合錠の他、ホルモン剤が順調に推移するとともに
当期より連結決算を開始したことで、業容が拡大いたしました。



※当中間期は、OLIC (Thailand) Limitedの数値が含まれております。なお、第47期と第48期については、当社単体の数値です。



中期ビジョン「2015年の姿」実現のため、既存コア事業の拡大と新規事業機会の具体化に取り組んでおります。

代表取締役社長 今井博文

●2015年の設立50年に向けた中期ビジョン「2015年の姿」の概要について

中期ビジョンでは、設立50年の節目を迎える2015年までに、「既存コア事業の拡大と次の時代につなぐ新規事業機会の具体化の実現」を重点課題として、当社独自の企業価値の持続的向上を目指し、次の4つを2015年の当社の姿として掲げています。

① 新たな注射剤を軸とした急性期医療事業の拡大

これまでのがんの診断・検査(造影剤)の領域からがんの治療へ対象領域を広げ、事業基盤の拡大を図るとともに、D&D(ドラッグ&デバイス)*1、DDS(徐放型)*2製剤、バイオ後続品*3など注射剤の大型製剤を軸に、付加価値のあるジェネリック医薬品を継続的に投入し、急性期医療における競争優位な成長基盤を構築してまいります。

② 女性医療のリーディング・カンパニーの実現

取り扱いが難しい高生理活性物質であるホルモン剤を製造できることが当社の強みの一つです。また、ホルモン剤を中心に産婦人科領域の医薬品を多数ラインナップしていることや、ドクターとの強固な関係の構築なども強みですが、こうした強みを活かし産婦人科領域でのホルモン療法の全てをサポートするとともに、ジェネリック医薬品と新薬の相乗的成長モデルを構築し、女性医療分野におけるリーディング・カンパニーを目指してまいります。

③ 研究開発を真ん中にした事業運営体制の構築

研究開発を軸にして各部門がもつ情報や当社の経営資源、技術の共有化・見える化を図り、新たな事業運営体制の構築を行います。

④ 海外での事業展開、新たなジェネリック医薬品の競争優位性の構築

海外での事業投資を経営戦略上の重要課題として、事業エリアを海外まで拡大し、グローバル製薬企業として新たな競争優位性を築いてまいります。

●当第2四半期累計期間における中期ビジョンの進捗、並びに新たな取り組みについて

これまでの国によるジェネリック医薬品促進策に加えて、本年4月、厚生労働省より2017年度末までにジェネリック医薬品の普及率を60%以上(数量シェア換算)とするジェネリック医薬品の使用促進に向けたロードマップが発表されました。これによりジェネリック医薬品の使用が一段と促進される一方、国内新薬メーカーや外資製薬メーカーなどのジェネリック医薬品市場への参入が更に活発化し、企業間競争は益々熾烈化するものと考えております。

このような環境下、当社の第2四半期(2012年10月～2013年3月)の取り組みといたしましては、全国のDPC(入院医療包括評価)対象病院やがん拠点病院に対し、継続的かつ積極的な情報提供活動を行うとともに、女性医療分野における営業のプレゼンスの確立を図ってまいりました。急性期医療分野では、昨年11月に製造販売承認を取得した国内初のバイオ後続品G-CSF製剤*4について、発売開始に向け専任チームを立ち上げ、バイオ後続品の啓発活動を行うなど準備をすすめてまいりました。

女性医療分野では、新薬「ルナベル®配合錠」(子宮内膜症に伴う月経困難症・機能性月経困難症治療剤*5)の販売に引き続き注力するとともに、不妊症治療薬、経口避妊薬並びに株式会社資

生堂より導入した新薬「ル・エストロジェル」(更年期障害治療薬)などの主力製品のシェア拡大を図ってまいりました。

また、研究開発の高度化、効率化を目的として富士工場の近隣に建設した新研究開発棟(富士研究開発センター)が本年4月に稼働いたしました。近年、ケミカルハザード対応が必要な抗がん剤等の開発品目が増加してきており、当センターでは世界標準に準拠したケミカルハザード対応の注射剤の試作設備を導入しております。本センターの稼働により、中期ビジョンに掲げている「研究開発を真ん中にした事業運営体制の構築」を加速させる準備が整いました。

海外事業においては、昨年10月にタイ国最大の医薬品製造受託企業であるOLIC (Thailand) Limited (以下、「OLIC社」)を子会社化し、海外での医薬品製造受託事業を引き継ぐとともにその拡大に向けて準備を進めております。

●当下半期の業績見通し、並びに注力施策について

前述のとおり、OLIC社を子会社化したことから、当期より連結決算を開始いたしました。OLIC社がグループ入りしたことで、グローバル展開を本格化する足がかりを手にすることができました。買収に伴うのれん償却費の発生により、短期的には利益が圧縮されますが、製造受託事業の拡大を図るとともに同社を軸にアジア市場への進出を実現し、収益向上を図ってまいります。

下半期の最重要課題には、急性期医療におけるG-CSF製剤の販売があげられます。がんの診断・検査に使われる造影剤の販売実績を活かし、がんの治療領域の開拓に本格的に取り組んでまいります。

女性医療領域では、製品の更なる品揃えや情報提供活動を通じ、医療関係者を強力にサポートすることで、なくてはならない存在になることを目指してまいります。

項目	金額(百万円)
売上高	25,975
営業利益	3,575
経常利益	3,540
当期純利益	2,190

(注)当期より連結財務諸表を作成しているため、前期との対比は行っておりません。

富士工場においては、現在、第5製剤棟(新注射剤棟)の第Ⅱ期工事を進めており、本年10月に稼働する予定です。当工事では、抗がん剤などの高活性医薬品と一般医薬品の両方が製造できる兼用ラインを導入し、また、凍結乾燥剤の無菌性保証レベルを更に向上させます。主力造影剤の生産能力倍増の体制とバイオ医薬品の高度な無菌性を保証する製造ラインを構築した第Ⅰ期工事に加え、第Ⅱ期工事が完了することにより、注射剤を軸にした更なる差別化、高度化を図り、新規事業機会の具体化の実現につながる生産基盤が構築されることとなります。

●株主の皆様へのメッセージ

当期は、がん治療領域への本格的な進出、女性医療領域におけるポジショニングの更なる強化、OLIC社を通じたアジア市場での新たな事業展開の推進、第5製剤棟第Ⅱ期工事の完成と、次期の飛躍に向けた積極的な取り組みを進めております。また、次世代の人材を育てる育成プログラムや、全社基幹システム刷新に向けたプロジェクトも進めております。

大きな転換期にある当社グループを、長期的視点からご支援くださいますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

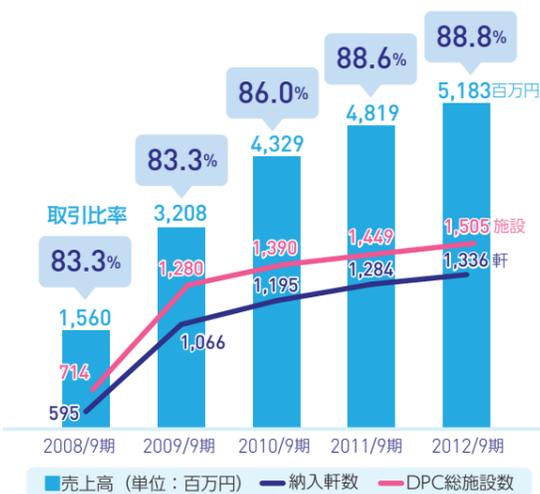
■用語解説■

- ※1 D&D: Drug&Deviceの略で、医薬品と医療器具(容器等)を融合させた付加価値のある医薬品開発を目指しております。
- ※2 DDS: Drug Delivery Systemの略で、必要な薬物を必要な時間に必要な部位で作用させるためのシステムのこと。当社では特に持続的に薬物を放出する徐放性注射剤を開発しております。
- ※3 バイオ後続品: 国内で既に承認されたバイオテクノロジー応用医薬品(先行バイオ医薬品)と同等・同質の品質及び安全性、有効性を有するものとして、異なる製造販売業者により、開発される医薬品と定義されております。
- ※4 G-CSF製剤: 血液中の好中球の産生や機能性を高める生物活性等を持ち、がん化学療法による好中球減少症の治療等に利用される生理活性蛋白質です。本剤が国内初のバイオ後続品G-CSF製剤として、好中球減少症治療等の新たな選択肢となり、患者様のQOL(Quality of Life/生活の質)向上に貢献できるものと考えております。
- ※5 月経困難症: 日常生活に支障をきたすほどの生理痛を生じる症状。臓器に病気があるために起こる器質性月経困難症と、ホルモンの影響で起こる機能性月経困難症があります。

2

マーケティング本部によるDPC※(入院医療包括評価)対象病院開拓に向けた取り組みのご紹介

■売上高/採用施設数



2003年4月より特定機能病院等82施設を対象に導入されたDPC包括支払制度は、その後一般医療機関へも急速に拡がり、2013年4月現在、DPC対象病院は1,496施設となっております。発売当初は抵抗感の強かった非イオン性造影剤も、ジェネリック医薬品使用促進策を契機として国立病院、DPC対象病院でも大幅に採用が進みました。放射線領域に強みのあるコニカミノルタ株式会社と共同販売したことも事業拡大につながりました。

非イオン性造影剤では販売当初より積極的に規格の品揃えを進めており、先発品同様の規格はもとより、「オイパロミン300注シリンジ150mL」(イオパミドール製剤)のような先発品にない規格についても医療機関からの声を大切に、ニーズを反映させた開発を行ってまいりました。

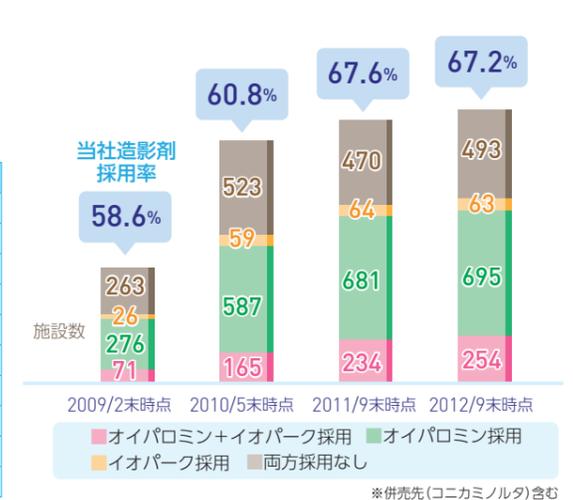
また、当社では安全性に関する自主的な情報の集積にも積極的に取り組んでおり、その一環として「オイパロミン注」においてジェネリック医薬品の造影剤では初めて使用成績調査を実施し、患者様の背景別や、造影検査別の副作用発現頻度などについて調査結果を集計し、医療機関へ情報提供させて頂いております。これは「イオパーク注」(イオヘキソール製剤)でも同様に実施しております。さらに情報提供資料の充実や関連学会でのセミナーやシンポジウムの共催を

通して、放射線科医や診療放射線技師との関係強化を図ってまいりました。

造影剤以外の当社製品でも、「注射用ソル・メルコート」(メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム製剤)や「デキサート注射液」(デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム製剤)なども、資材の充実や社内教育を強化し、薬剤部やキーオピニオンドクターとの関係の構築を進め、多くの医療機関でご採用頂いております。2012年9月末時点でのDPC対象病院での取引比率は約89%となっておりますが、このような取り組みが多く医療機関に評価され、製品の採用に結び付いているものと考えております。

※DPC: Diagnosis Procedure Combination
診断群分類とは、医療費の定額支払い制度に使われる評価方法。入院医療包括的診療報酬制度として、2003年から厚生労働省が推進し、現在では全国で導入する病院が増加しています。

■DPC対象病院による当社造影剤採用状況



※併売先(コニカミノルタ)含む

OLIC (Thailand) Limitedの近況について

OLIC (Thailand) Limited社が昨年10月に富士製薬工業グループの仲間入りをしてはや半年が経ちました。2011年秋に発生した大規模な洪水被害の影響も癒え、医薬品製造受託企業として欧米製薬企業を中心とした既存顧客からの受注も順調に伸びています。また、最近では富士製薬工業グループになったことや東南アジアでの販売を検討されている会社が多いこともあり、日系製薬メーカーからの引き合いも徐々に増えてきています。富士製薬工業製品の受託製造を含めて新たなビジネスチャンスとして積極的に事業を拡大してゆきたいと思っております。

OLIC社でも従業員の労働意欲向上のための各種催しがありますが、今年も年初めに恒例のニューイヤーパーティを開催しました。屋外グラウンドを借り切って総勢700名以上が参加し、にぎやかな年始となりました。



挨拶をしているのはOLIC社のゼネラルマネージャーのディヴィット・ガイ氏です。(OLIC社のニューイヤーパーティーにて)

新研究開発棟を竣工

当社は、研究開発の効率化・高度化に向けた新たな研究開発棟として、富山研究開発センターの建設を進めておりましたが、本年4月2日、無事竣工式を執り行いました。新研究開発棟は、抗がん剤のような毒性のある物質、少量でも人体に強く作用する物質といった高薬理活性物質が含まれる排水を分離廃棄する設備や、実験室で発生する酸性やアルカリ性の有毒ガスなどを中和・除去したうえで大気中に放出する排ガス洗浄装置を導入するなど、周辺環境の汚染防止に向けた設備を積極的に採用するとともに、作業者の健康被害を防止するため、安全な環境で作業ができる注射剤の試作設備を有しております。新研究開発棟の竣工により、中期経営計画に掲げております「研究開発を真ん中にした事業運営体制の構築」を加速させ、中長期の戦略パイプラインの充実を一層進めてまいります。



施設概要

名 称	富山研究開発センター
所 在 地	富山県富山市水橋中村447番地1
規 模	鉄骨造3階建、建築面積1001.96㎡、 延床面積 2898.46㎡
投 資 額	約10億円

遺伝子組換えヒト顆粒球コロニー形成刺激因子(G-CSF)製剤「フィルグラスチムBS注シリンジ『F』」の国内製造販売承認取得



当社は、昨年11月21日に遺伝子組換えヒト顆粒球コロニー形成刺激因子(G-CSF)製剤「フィルグラスチム(遺伝子組換え)[フィルグラスチム後続1]BS注シリンジ『F』(75・150・300 μ g)」の国内製造販売承認を取得いたしました。G-CSFであるフィルグラスチムは、白血球中の免疫担当細胞である好中球の産生促進や機能向上の作用などがあり、がん化学療法による好中球減少症の治療などに利用される生理活性蛋白質です。本剤は、当社が株式会社ジーンテクノサイエンスと開発を開始し、その後、持田製薬株式会社とともに製造販売承認の取得に向け、共同開発を進めてきた製剤で、G-CSF製剤のバイオ後続品として国内で初の承認となります。当社では、本剤が好中球減少症治療などの新たな選択肢となり、患者様のQOL向上に貢献できるものと考えております。なお、本剤の製造は当社が行い、当社と持田製薬株式会社がそれぞれのブランドで販売を行う予定です。



株主の皆様の「声」が私たちの原動力です。

Shareholders Voice

前報告書でご協力をお願いいたしました、アンケートの集計結果についてご報告いたします。ご回答いただきました335名の株主の皆様、ご協力誠にありがとうございました。

当社では貴重なご意見として、今後の活動へ反映させるべく努めてまいりたいと思います。アンケートは定期的実施してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

Q ■ 製品の市場でのシェアや現在取り組んでいる分野など、詳しく教えてください。

A ■ 主力の造影剤は、国内のCT用造影剤市場の19.4%のシェア(出荷数量ベース・当社調べ)を獲得しています。がんの診断に使用される造影剤から、がんの治療/抗がん剤、造血剤、制吐剤に対象領域を拡大することに現在取り組んでいます。その一つがバイオ後続品G-CSF製剤の「フィルグラスチム」です。

Q ■ 研究開発に力を入れて欲しい。

A ■ 当社にとりまして、バイオ後続品G-CSF製剤「フィルグラスチム」の承認は貴重な経験となりました。これを糧に当社の医薬品開発の新たなステージに踏み出したいと考えております。また、新研究開発棟の稼働によりケミカルハザード対応が必要な医薬品の自社開発、医療現場のニーズに応えるべく様々な製剤開発・製剤技術の蓄積を推進していきます。当社が掲げる女性医療、抗がん剤を中心とした急性期医療の現場にジェネリック医薬品、DDS製剤、付加価値製剤、バイオ医薬品、ホルモン剤新薬などをいち早く提供できるよう、努力してまいります。

■ 株主アンケート集計結果

アンケート配布3,891名/回答335名(回答率8.61%)

当社の株式を購入した理由について お聞かせ下さい。(複数回答可)

配当政策	30.4%	102名
将来性	69.6%	233名
安定性	22.7%	76名
株価の割安感	21.2%	71名
製品	11.3%	38名
新聞・雑誌等の評価を見て	9.3%	31名
証券会社の薦め	10.1%	34名
その他	6.6%	22名

当社に望まれることは何ですか？(複数回答可)

増配	43.9%	147名
積極投資	22.4%	75名
IR活動の充実	6.3%	21名
長期成長ビジョン	49.9%	167名
株主還元	43.9%	147名
知名度向上	19.7%	66名
その他	2.1%	7名

株主様からの「応援メッセージ」

東証一部に上場となり、更なる知名度の向上、成長を期待します。

東証一部上場おめでとございます。今後ますます期待しています。

国内だけでなく海外でも積極的に事業を拡げ、世界的な医薬品メーカーに成長していくことを期待しています。頑張ってください。

高齢になって医者・薬とは縁が深くなっております。ジェネリックの薬も使っております。安全な薬を作っていただきたいと思っております。

今のまま良い製品を提供し続けて下さい。ずっと応援しています。

持続的な成長を期待します。

今後も更なる成長を目指し、日々努力願います。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、当社をよりご理解いただくため「バーチャル工場見学」や会社情報、最新のトピックス、業績報告など様々な情報を掲載しております。ぜひアクセスして下さい。

アドレスはこちら↓

<http://www.fujipharma.jp/>



会社概要 | 2013年3月31日現在 |

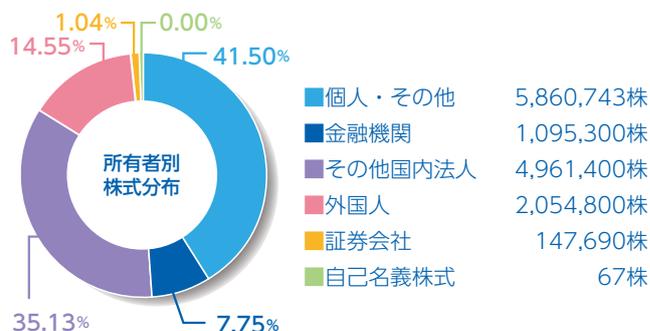
会社名	富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)		
所在地	〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7		
設立	1965年4月		
資本金	24億4,741万円		
社員数	連結：1,465名 (富士製薬：581名、OLIC社：884名)		
事業所	本社：東京 支店：東京、名古屋、大阪、福岡 営業所：札幌、仙台、富山 工場：富山 研究所：富山研究開発センター		
海外グループ会社	OLIC (Thailand) Limited http://www.olic-thailand.com/		
役員	代表取締役社長	今井博文	
(2013年3月31日現在)	常務取締役	広見寛	
	取締役	上出豊幸	
	取締役	三橋厚弥	
	取締役	平山健	
	取締役(社外)	小沢伊弘	
	取締役(社外)	内田正行	
	常勤監査役	徳永賢一	
	監査役(社外)	三村藤明	
	監査役(社外)	佐藤明	

株式の状況 | 2013年3月31日現在 |

発行可能株式総数	28,220,000株
発行済株式総数	14,120,000株
株主数	3,770名
大株主	

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社F J P	2,141,000	15.16
今井 博文	2,025,000	14.34
三井物産株式会社	1,930,600	13.67
テルモ株式会社	643,500	4.55
新井 規子	620,000	4.39
BBH BOSTON-HEARTLAND VALUE FUND 620018	500,000	3.54
今井 道子	423,000	2.99
RBC IST LONDON-CLIENTS ACCOUNT	325,700	2.30
富士製薬工業従業員持株会	227,590	1.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	214,200	1.51

(注) 持株比率は自己株式(67株)を控除して計算しております。



株主メモ |

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月開催
基準日	定時株主総会 毎年9月30日 期末配当金 毎年9月30日 中間配当金 毎年3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話 照会先) ☎ 0120-782-031 (インターネットホームページ URL) http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第一部

●第49期中間配当金のお支払いについて

第49期中間配当金は、同封の「第49期中間配当金領収証」により、払渡し期間(2013年6月3日から2013年7月3日まで)内に最寄りのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)でお受け取り下さい。

なお、銀行振込をご指定の方には、「配当金計算書」及び「お振込先について」、株式数比例配分方式をご指定の方には「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしますので、ご確認下さいようお願い申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)へお問い合わせ下さい)。

●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております(同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせ下さい)。



富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

■ IRに関するお問い合わせ

本社/管理部 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F
TEL : 03-3556-3344 FAX : 03-3556-4455

URL : <http://www.fujipharma.jp/>

